

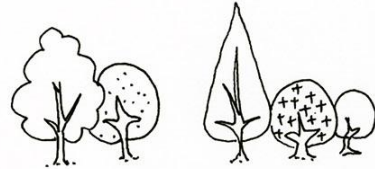
でかいきょうかい しんぶん  
\* 堺教会 CS 新聞「いずみのひろば」は、ぜひ家族の人と一緒に読んで下さい。

# いずみのひろば

2018年2月号  
日本基督教団堺教会  
No.471 教会学校

## 『自分のために、きざんだ像を造ってはならない』

コリント信徒への手紙2 6章14～16節



今日の聖書のお話に出てくる“偶像”という言葉 皆さんは知っていますか？ それは、神さまの姿をかたどって

造られた像などのことです。例えばこの日本にも、特に大阪の隣の京都や奈良の古いお寺などにはとても古い文化財

がたくさんあります。教科書で見た人もいるのではないのでしょうか？では、なぜ聖書ではこの偶像を造ることを禁止して

たしかに、神さまのお姿が描かれた絵やかたどられた人形があったら、私たちのそばにすることが感じられ、安心

することができるかもしれません。また、神さまを信じることを忘れずに毎日を過ごすことができるかもしれません。

でも、神さまは私たち皆を平等に愛することができる方なのです。皆さんも、学校や幼稚園のクラスの中でもとても

仲の良い子や、好きな子もいれば、少し苦手な子や、あまりうまくお話できない子もいると思います。ですが、神さまは

世界中の全ての人を同じように愛することができるのです。そんな大きな神さまのお姿を私たちが造ることはできま

せんし、もし無理矢理造ったとしても、それは本当の神さまのお姿ではないので、聖書では造っていけないと書かれて

しかし、そんな神さまがこの世界にお姿を現してくださったことが1度だけあるのです。それがイエスさまです。イエ

スさまが神さまのひとりごととしてこの世界にお生まれになり、人として生き、苦しんでまで私たちに寄りそってくださ

たのです。そのおかげで、私たちは神さまに愛されていることを確認できるようになったのです。

聖書にはこうも書かれています。『私たちは生ける神の神殿なのです。』神殿とは、私たちが毎週日曜日に集ま

っているこの教会のことです。教会とは建物そのものではなく、神さまが私たち皆を愛して下さり、常に

寄りそってくださっていることを知っている私たちの集まりのことです。

神さまが、常に共にいてくださるのを知っているからこそ、私たちに偶像はいらないのです。(お話し 辻野智也先生)